



立て心よ 行け私よ

No. 9

【問題解決力】 【他者関係力】 【自己更新力】

文責:中村 文成

第2回学校評価アンケートの結果より

2025年度の生徒アンケート結果（1回目7月、2回目11月）をお知らせします。

本アンケートは、墨坂中学校の教育目標に基づき、「問題解決力」「他者関係力」「自己更新力」という3つの資質能力の達成度を測るものです。

私たちは、この結果を全教職員で共有し、全ての生徒がより良い学校生活を送れるように努めます。

なお、アンケート結果の考察は、2回目（11月）の調査結果を基に行っております。1回目の考察は、学校だより第6号でお知らせしました。学校HPでもご覧頂くことができます。今回は、生徒のみなさんに11月に回答してもらった、学校評価アンケートの集計結果をお知らせします。

1 生徒アンケートの概要

学校生活に関するアンケートは全22項目で実施しました。全体的に生徒の評価は非常に良好で、肯定的な評価（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計）が平均で94.2%となりました。

（1）学校生活全体について

学校生活全体についての項目では8項目のうち5項目で、95%以上の肯定的評価が得られました。特に「学校には相談できる友だちがいる」という質問に関しては、93.9%が肯定的に回答しました。1年生では93.9%、2年生では94.0%、3年生では93.8%が友達と良好な関係を築いていることが分かります。この結果を踏まえ、今後も友達との交流を深める活動を積極的に取り入れていきます。また、「学校に来るのが楽しい」という質問についても94.7%が肯定的な回答をしました。ただし、肯定的に回答しなかった5.3%の生徒に寄り添い、学校がより楽しい場所になるよう改善していきます。

（2）学習について

学習に関する8つの項目のうち6項目で90%を超える肯定的評価が得られました。特に「授業では、先生の話や友達の発表を聴くことができる」という項目では98.7%の生徒が肯定的に回答しており、落ち着いた学習環境が整っていることが分かります。また、「授業では、質問したり意見を述べようと努力している」といった項目では90.2%の生徒が肯定的に回答しており、積極的に学びに参加していることが分かりました。今後も「小グループでの協働的な学び」を大切にし、生徒同士の意見交換や質問を活発に行えるようにしていきます。

一方、「宿題以外に、予習や復習など自分で考えた学習を家でしている」という項目では、肯定的に回答した生徒が指標の75%に届かず70%にとどまり、家庭での自主的な学習習慣の定着が課題であることも分かりました。今後は、自律的な学習を促進するために、各教科における基礎的基本的事項の定着を図る取り組みや課題追究方法の個別指導、オンライン教材の利活用を進めます。

（3）生活や行動について

生活や行動に関する6項目の全項目で90%以上の肯定的評価があり、生徒が落ち着いた学校生活を送っている様子がうかがえます。特に「生徒会や学級の活動は互いに協力して行われている」という項目では98.7%が肯定的に評価しました。清掃活動についても、92.8%が「力を込めて4

回がけ」を意識して取り組んでいると答えており、学校の伝統である清掃活動が根付いていることが分かります。

また、「進んであいさつすることを心がけている」という項目では95.2%が肯定的に答えていました。挨拶は、相手との信頼関係を築く最初のステップであることや挨拶がきっかけとなってコミュニケーションが促進されることなど、他者との人間関係を構築していく上で大切なものを生徒と職員で共有し、挨拶が活発に行われる学校作りを目指します。

2 学校評価 生徒アンケート 記述回答について

「先生は一人ひとりが学習内容を身につけられるように工夫している」という項目では98.1%の高評価を得ましたが、一部の生徒からは「授業の進む速さ」や「理解を深める授業への改善」が求められています。今後も、生徒一人一人の理解度や進度に合わせた学習を進めていきます。

また、二人担任制やローテーション担任制に関しては、93.6%の生徒が肯定的に評価しており、多くの先生と接する機会が増えたことに対して好意的な意見が多く寄せられました。

さらに、学校施設や生活に関する改善要望もあり、これらについても生徒の意見を尊重し、改善に努めています。

学校評価アンケート 全校生徒(令和7年度2学期(第2回)アンケート結果

1 学校生活全体について	実数				% A そう思う B 少し思う C あまり思わない D 思わない				A+B	C+D	小計	A+B(%)	C+D(%)	評価指標
	A そう思う	B 少し思う	C あまり思わない	D 思わない	A そう思う	B 少し思う	C あまり思わない	D 思わない						
1 学校に来るのが楽しい。	253	104	13	7	67.1	27.6	3.4	1.9	357	20	377	94.7	5.3	90
2 学校には相談できる友だちがいる。	299	55	18	5	79.3	14.6	4.8	1.3	354	23		93.9	6.1	90
3 一人ひとりが大切にされている雰囲気がある	274	88	12	3	72.7	23.3	3.2	0.8	362	15		96.0	4.0	
4 学校は命の大切さや仲間の大切さについて教えてくれる	316	51	7	3	83.8	13.5	1.9	0.8	367	10		97.3	2.7	
5 学校は地震や火事、不審者への対応の仕方をきちんと教えてくれる	336	36	4	1	89.1	9.5	1.1	0.3	372	5		98.7	1.3	
6 自分の生き方や将来の進路について考えたり情報を得たりする機会がある。	267	93	14	3	70.8	24.7	3.7	0.8	360	17		95.5	4.5	
7 学校の施設は整備されていて、気持ちよく使える。	279	79	15	4	74.0	21.0	4.0	1.1	358	19		95.0	5.0	
8 今年度の3学年の二人担任制や1、2学年のローテーション担任制はよいと思う。	280	73	15	9	74.3	19.4	4.0	2.4	353	24		93.6	6.4	90

2 学習について

9 授業では、先生の話や友だちの発表をしっかりと聞くことができる。	319	53	3	2	84.6	14.1	0.8	0.5	372	5	377	98.7	1.3	
10 授業では、質問したり意見を述べようとしたり努力している。	240	100	32	5	63.7	26.5	8.5	1.3	340	37		90.2	9.8	90
11 授業では、大切と思われることはメモをとっている。	250	92	28	7	66.3	24.4	7.4	1.9	342	35		90.7	9.3	
12 教科の課題や提出ノートはきちんと出している。	178	133	57	9	47.2	35.3	15.1	2.4	311	66		82.5	17.5	
13 宿題以外に、予習や復習など自分で考えた学習を家でしている。	156	144	59	18	41.4	38.2	15.6	4.8	300	77		79.6	20.4	75
14 先生は、一人ひとりが学習内容を身につけられるよう工夫して学習を進めてくれる。	273	97	6	1	72.4	25.7	1.6	0.3	370	7		98.1	1.9	
15 授業の進む早さはちょうどよい。	229	125	19	4	60.7	33.2	5.0	1.1	354	23		93.9	6.1	
16 授業の内容がわかる。	194	160	20	3	51.5	42.4	5.3	0.8	354	23		93.9	6.1	90

3 生活や行事について

17 「進んであいさつ」することを心がけている。	280	79	16	2	74.3	21.0	4.2	0.5	359	18	377	95.2	4.8	95
18 「力をこめて四回がけ」を意識して清掃に取り組んでいる。	239	111	18	9	63.4	29.4	4.8	2.4	350	27	377	92.8	7.2	80
19 身支度を整え、無言清掃ができている。	292	72	9	4	77.5	19.1	2.4	1.1	364	13	377	96.6	3.4	
20 生徒会や学級の活動などは、互いに協力して行われている。	307	65	3	2	81.4	17.2	0.8	0.5	372	5	377	98.7	1.3	95
21 多くの仲間は、集団生活のマナーやルールを守って生活している。	285	77	12	3	75.6	20.4	3.2	0.8	362	15	377	96.0	4.0	
22 キャンプや修学旅行、文化祭などの行事は楽しみである。	333	32	7	5	88.3	8.5	1.9	1.3	365	12	377	96.8	3.2	

このように、アンケート結果は全体的に良好であり、今後もさらに生徒一人ひとりに寄り添い、学習環境や学校生活の充実を図っていく所存です。

全国学力・学習状況調査の結果の分析と考察について

4月17日に全国一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果について、本校3学年生徒の傾向と、それを受けた改善の方向をお知らせします。この調査でわかるのは学力の一部分ではありますが、調査結果の分析に基づいた本校生徒の学力の傾向をつかみ、日々の教育活動や今後の具体的な取り組みについて検討して、改善に役立てたいと考えております。

全体としては、国語と数学ともに、平均正答率が、全国平均とほぼ同じという結果となっています。墨坂中学校のグランドデザインでお示しした【評価指標】「正答率全国比 - 3%以内」を達成することができました。以下、各教科における成果と課題、今後の対策から見える本校生徒の学習の傾向について掲載いたします。なお、生徒質問紙についての結果は、次回お知らせします。ご家庭でも、参考にしていただけますと幸いです。

教科に関する調査結果の概要

調査内容	教科別 平均正答率	考察及び対策
国語	全国平均とほぼ同じ	<p>◆知識・技能については、全国平均を上回りました。特に「『しきりと』の意味として適切なものを選択する問題」では全国を大きく上回り、「変換した漢字として適切なものを選択する問題」でも上回りました。このことから、これまで大切に取り組んできた授業導入時の漢字を中心としたドリル学習を今後も継続したり、授業で学習したことと関連づけた家庭学習を位置づけたりすることで、引き続き、学習内容の定着に努めています。</p> <p>◆思考・判断・表現については、全国平均をやや上回りました。領域別では、「話すこと・聞くこと」および「書くこと」では全国平均を上回りました。特に、「書くこと」では、「手紙の下書きを見直して、誤って書かれている漢字を見つけて修正する問題」で全国平均を大きく上回りました。しかし、「書くこと」の中にも、全国平均に届かない問題もあるので、目的に応じて自分の考えをまとめて書く学習の場を意図的に位置づけていきます。「話すこと・聞くこと」および「読むこと」では全国平均をやや下回りました。特に「読むこと」では、「表現の効果につ</p>

		<p>いて根拠を明確にして答える問題」や「文章の構成や展開について根拠を明確にして答える問題」で全国平均を下回る問題もあったことから、「読むこと」の学習が単なる文章内容の読み取りや理解にどまることがないように、つける力を明確にして授業を展開し、「書くこと」とも関連づけながら、表現の効果や構成について根拠をもって自分の考えをまとめられるような学習を位置づけていきます。</p> <p>◆問題形式では、記述式の問題が4問あったが、その全てにおいて無答率が全国平均より低くなりました。これには、1年次より取り組んでいる新聞のコラムの学習効果もあるように考えられます。今後も週末ごとにコラムを読み、よい表現に触れたり、自分の考えを200字程度にまとめたりする家庭学習を継続し、書く力を伸ばし、記述問題に抵抗なく取り組める生徒を増やしていきます。</p>
--	--	---

調査内容	教科別 平均正答率	考察及び対策
数学	全国平均とほぼ同じ	<p>◆知識・技能については全国平均とほぼ同じ正答率でした。ただし、中学校1年生の学習事項である「1から9までの数の中から素数を全て選ぶ」問題では全国平均を下回りました。下学年の内容についても、授業の中で復習する機会をつくっていきます。</p> <p>◆思考・判断・表現については、全国平均とほぼ同じ正答率でした。確率について正しい記述を選び、その理由を数学的な表現を用いて説明する問題では全国平均を上回りました。さらに力を伸ばせるよう、今後の授業内で、教科書の問題などを有効に活用して、論理的に説明する活動やお互いの記述を比較する活動を通して、より筋の通った説明につながるような学びを得られる工夫をしていきます。</p> <p>◆領域別では、「数と式」が全国平均を下回り、「図形」、「関数」、「データの活用」では上回りました。授業開始時のドリル等を利用し、計算技能の定着を図っていきます。</p>
理科	<p>全国平均をやや上回りました</p> <p>理科は、今年度CBT方式が用いられ、一人一人問題の組み合わせが異なる出題形式となっています。また、結果は、IRT(項目反応理論)に基づいて、異なる問題を解いても各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し表しています。</p>	<p>◆知識・技能については、「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に適切な避難行動を選択するという設問において、正答率が全国平均を上回りました。生徒質問紙の「理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できていますか」や「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の項目で、肯定的回答をした生徒が全国平均を上回っていることからも、学習した内容と実生活や将来の生活を結び付けて考えることができていると思われます。さらに、「消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する」設問の正答率も全国平均を上回り、学習した内容が概念的知識として身についていることが伺えます。</p> <p>◆思考・判断・表現について、「小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について、共通性と多様性の見方を働きかせながら比較し、分析・解釈できるかどうかを見る」設問の正答率が全国平均を下回りました。各領域で身に付けた知識及び技能について、領域を越えた内容にも関連付けることを意識した指導をしていきます。</p>